

道標

仙台では落ち葉も多くなり、今年も1カ月余りという言葉もちらほらという季節になった。年末に「大掃除」は欠かせない。大掃除は12月末というイメージが強いが、今治から東北・仙台に行った者には、雪交じりの中での掃除はこたえる。研究室では、天気予報を基に暖かな日中を選んで大掃除をしている。寒空の下でやるのも一興かもしれないが、暖かい日の方が体の動きがよく、掃除の効率が明らかによい。

大掃除の効率向上・労力軽減には、日頃からの掃除が重要である。掃除とともに、自分が普段の生活で心掛けていることは、可能な限り「元の場所に戻す」ことである。この「元の場所に戻す」という言葉は、「片付ける、掃除する」と同じニュアンスかもしれない。

掃除と品種改良



東北大学大学院
生命科学研究所教授

渡辺 正夫

ない。周りの環境が整うことは、思考力・仕事効率もよくなる。そんな時、自分が今治西高校で教育実習をした折、化学の指導教員であった白川先生の言葉を思い出す。「渡辺君は教員に

授、教授と年を重ねることに、教育研究に関わる質の異なる多様な仕事が増えた。そうした時、この言葉の意味を痛感するようになってきている。掃除のもう一つのポイントは、いかに「ものを捨てる」かである。最近では、紙媒体をデジタル化して保存することで、場所だけとはらなくなったが、根本的な解決ではない。ただ、「捨てる」ということは、作物の品種改良・作物育種とつながる部分もある。大学時代の恩師である日向教授の言葉に「品種改良・育種では目的の形質に関する遺伝子を固定するためには、10世

効率的取捨選択が鍵

なるのかね。なってもならなくても、自分の大事な仕事をやるためには、いかに小さな仕事や雑用をさっさと片付けるかが大事なんだよ」と言われた。当時は、さほど気にも留めなかった。しかしながら、大学院生、助手、助教

代近く世代（子孫）を展開する必要がある。世代を進めると子孫は増え、その中からどの系統が優れた品種になるのかを选拔することが重要となる。つまり、育種学とは優れた系統を选拔するとともに、それ以外をいかに効率よ

ふるさと伝言

く捨てるかという学問でもあるのだよ」とあり、これは当を得ていると実感している。

電子メール、携帯電話などが発達した現代、これまで以上に仕事量は増加し、効率的な仕事のやり方が重要度を増している。こうした環境下では、今やるべきことと、そうでないことをいかに「取捨選択」するかというポイントの理解度・実行力が問われる。言い換えれば、やるべき仕事の中で、「真に力点を置くことと、全力でない力でもできることを見分ける眼力」の習得が重要な鍵となるであろう。このことは、仕事の段取りを頭の中でシミュレーションすることに役立ち、結果としてよりよい成果につながるものと信じている。こうしている間にも、渡辺の執筆も次回が最後となった。これまでにさまざまなお話を教えていただいた師匠の言葉を振り返り、この1年間で書きつづけたことをきちんと整理し、きれいに筆を置くための掃除、片付けを今から準備することにしよう。

(わたなべ・まさお、今治市生まれ)